

# 最新事情

広々とした  
明星大学日野校の中庭



## グループ学習を中心に 他者理解と自己理解を深める初年次教育

# 明星大学

(東京都日野市)

明星大学では平成22年度に、全学部生共通の初年次教育プログラム「自立と体験1」を導入した。創立以来の方針である「体験教育」に立ち戻り、全教員で意欲ある明星大生を育てようという同学の取り組みについて伺った。

### もう一度大学本来の 教育目標に立ち戻って

明星大学は今、教育改革の時を迎えている。卒業後の生き方までを含めて、学生が自ら考え行動する力を養うため、初年次教育からキャリア教育につながるプログラムの整備を進めているのだ。

明星大学の創立は昭和39年とそれほど古くはないが、母体である明星学苑は大正12年(当初は明星実務学校)に、同学初代学長となった児玉九十により創設された。児玉九十は大正から昭和前期にかけて人間教育を提唱した教育者である。同学はその思想を反映し、「自己実現を旨指し社会貢献ができる人の育成」を目標に、「体験教育」を教育方針に据えてきた。教育改革の背景には、この教育理念、教育方針をもう一度見詰め直そうという動きがある。

佐久間美智子副学長(中央)と  
明星教育センター鈴木浩子特任准教授(右)、  
同センター事務室の御厨まり子課長(左)



全学初年次教育の科目担当責任者である佐久間美智子副学長は、昨今の学生の学びとこの教育改革の関係について次のように話す。

「昭和39年の開学当時とは社会も違えば、学生の意識も違います。学びたいことがあつて来ている学生は数多くいますが、希望していた大学に行けなかった、家から近い、何となく皆が行くから大学に行くという学生もいる。これは本学だけでなく、全国の多くの大学で問題となっていることです。本学としてはどの学生も「明星大生」としてきちんと育てたいし、学生にはここで学ぶというプライドを持ち、学ぶ姿勢や習慣を初年次にしっかりと身に付けてもらいたい。そのための教育改革なのです」。

現在、全国の大学の約70%が初年次教育を導入しているという。明星大学では1年生の必修科目「自立と体験1」として平成22年度から開始し、この科目を中心に担当する5名の特任



「自立と体験1」はグループ学習が中心。  
毎回必ず取り入れている

教員も採用した（平成23年度に1名追加となり現在は6名）。「2年間の実施の中でプログラムや授業の進め方を改善してきました」と話す鈴木浩子特任准教授もその一人だ。特任教員は教育改革を牽引するために設置された明星教育センターに所属し、授業の管理運営や指導教員のFD（Faculty Development）も担当している。

「自立と体験1」は「他者との関わりを通して自己理解を深め、明星大学で学ぶ自分自身を理解すること」を教育目標に掲げている。特徴はまず1クラスが学部学科を超えて編成された30人の少人数制であること、そして授業では毎回必ずグループ学習を取り入れていることだ。

「学科ごとにカラーは異なり、個人の個性も異なりますから学部学科横断は大変ですが、違う考えを持った人と交流し、自分を見直したり他人を理解することにつながります」（佐久間副学長）。

全15回のうち、第一節（1～5回）は「人と関わる」ことがテーマ。第二節（6～11回）は「人と関わる・学びのスタートを切る」で、図書館や大学の施設を回って演習やインタビューを行い、学長の講話を聞くなどの活動で自分たちが学ぶ環境

について理解する。そして第三節（12～15回）は「大学生活を見通す」として、仕事や学生生活の送り方など卒業後にまでつながるような内容を取り扱っている。

「オリジナルのテキストには、グループ内で一人ずつが意見を述べる『発表リレー』や、一人に対し他の人が一つだけ質問をする『一問一答インタビュー』の方法を示しており、全員が活動できるようにしています。グループ学習は中学校では経験していても高校では全く行わない学校もあるようで、最初のうちはグループ内で話をするのも苦労しているようですが、回を追うごとに積極的に参加する学生が増えてくるのが分かります」と鈴木先生は話す。

## 他人の考えを知り、視野が広がるという成果

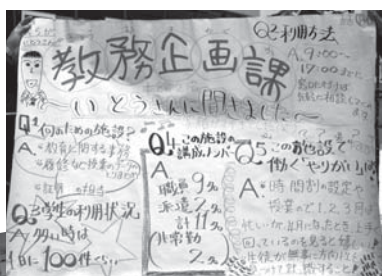
開講から2年だが、多くの学生から「大学の学び方が分かった」と高い評価を得ている。「授業後のアンケートでは、特に役に立ったのはルールとマナーを学ぶ回という結果でした。ちよつと意外でしたが、これまで知らなかったけれど必要なことを学んでおきたいという気持ちが強いです。また、この大学で学ぶことを前向きに捉えられるようになったという学生が多くなったことは、大きな成果と言えると思います」（鈴木先生）。

さらに、学科を超えて友人ができ、高校とは違う環境に不安を抱いていた学生が、大学生活

を過ごしやすくなったといったことがアンケートから読み取れる。

この科目では上級生がSA（ステューデントアシスタント）として各クラスで補助をしており、昨年受講して「今度は自分が後輩の補助をしたい」とSAに志願する学生も多いそうだ。

教育学部2年生の兼子美季さんもその一人。昨年受講したときは、「教員を目指しているので、グループ学習は役に立つと思いました」と話す。今年はSAとして教員と明星教育センターの橋渡しをしたり、出欠の確認をするほか、授業中にグループの間を回って学生の活動を促進するためのきっかけ作りを行ったという。現在は近隣の小学校にインターンシップに行っており、SAの経験は児童への目配りや声掛けの



学内のさまざまな部署で、  
仕事内容ややりがいなどについて  
インタビューをする。  
グループごとに模造紙を使って行う  
まとはは実にカラフルだ  
（「自立と体験1」）





最新事情 23 ..... 明星大学

カードに書かれた毎日の仕事内容などから  
その職業を当てる「卒業生パズル」。  
この授業のために作成したものだ（「自立と体験1」）



役に立っている。

兼子さんが「自立と体験1」を受けて一番刺激になったのは、先輩や他学部の学生から、自分とは違う考え方を知ることができたこと。「就職についてはほとんどほかの選択肢を考えていなかったのですが、SAの先輩から『一つの夢を持って入学して

も、学ぶうちにいろんな考えを持てるし、もっと広がることもある』と聞いたり、他学部には4年間かけて将来の目標を決めようとしている人もいて、『既に決まっていればそれに向かつて頑張れるし、まだ決まっていなければ可能性を広く持てる。どちらもいいところがあるんだ』と思うように。そのおかげで、例えば学校の教員でなくても子どものためになる仕事はほかにもある、と視野を広げることができるようになりました」。

### 学部学科の枠を超え 全教員で学生を育てたい

「自立と体験1」は、学部の教員が授業を担当するのも大きな特徴である。なにせ1年生全員が同時期に受講すると昨年は65クラス、今年が68クラスにもなるため、特任教員だけでは手が回らない。そこでグループ学習の指導に慣れている特任教員は2〜4コマ、各学部から選ばれ

た教員が1コマを担当している。

「専門領域の指導だけをしてきた先生方にはなかなか慣れないところがあったかもしれない。自分の学部学科以外の学生を受け持ち、担当することのためにためらいのある先生も多かったようです」と佐久間副学長。研究や専門を教える意識は高くても人を育てることに意識があまり高くない人もいれば、内容が大学生らしくないという意見もある。しかし教育力と研究力は違う。特に明星大学はその理念からして「教育」に重きを置いてきた。人と関わり、つながりを築いて初めて教えていけるという理念に立ち返るものとして、「自立と体験1」には大きな意味があるのだ。

グループ学習を主体とする参加型の学習は指導する教員が大変なの言うまでもないが、それをあえて学部の教員が行うことでよい効果も出ている。「やってみるとグループ学習の面白さを理解し、楽しんで取り組んでくださる先生もいます。自分のゼミで取り入れるなど、少しずつ教員の間でも広がってきています」と鈴木先生。授業で起こったことや問題は、授業終了後に担当教員とランチミーティングで互いに意見を交換し、その場で出た話題や翌週に向けた内容をニューズレターにまとめ、情報共有をしているという。

1年前期の「自立と体験1」に続き、1年生後期の「自立と体験2」は専門科目の基礎となる内容を各学部・学科ごとで行う。その後は、



昨年「自立と体験1」を受講し、  
今年SAを務めた  
2年生の兼子美季さん

再び全学部共通で、社会人基礎力を育成する「自立と体験3」（2年生／平成24年度後期開講予定）、就職に対する意識付けをする「自立と体験4」（3年生／平成24年度前期開講予定）へとつながる。これらは就職活動のテクニクではなく、卒業後の生き方を考えさせるもの。キャリアセンターが行ってきたいわゆる就職活動支援の、さらに基礎となる内容を予定している。

昨今では、卒業し、就職して自分の人生を築いていくことに対して明るい展望を持ってない学生が多いと聞く。しかし「自立と体験1〜4」で、グループ活動を通して成果を積み重ねること、未来が現実的にイメージできるようになるのである。

まだ緒に就いたところではあるが、教員の姿勢も少しずつ変化している。佐久間副学長は「社会を担う若者を育てるのが明星大学の使命。『明星の学生はしっかりしているね』と言われるように、大学全体として『明星の学生』を育てていきたいのです」と語る。地道な取り組みが、いずれ大きな成果につながることを期待したい。